

ビワ生育情報

千葉県
平成27年3月号

平成27年2月の気象

平成27年2月の半旬別の気象は表1に示した。平均気温は、第1、第2及び第4半旬では平年を下回ったが、第3、第5及び第6半旬では平年を上回った。第1半旬では4.0℃、第5半旬では10.1℃を記録し、寒暖の差が激しい月であった。月平均気温は6.4℃で、平年より0.1℃、前年より0.5℃高かった。

氷点下を記録した日は第1～第5半旬でみられた。月合計は7日で、平年より約2日少なく、前年より1日多かった。最低極温はすべての半旬で平年並みか平年より高く、ビワ幼果が寒害を受ける-3℃以下を記録した日はなかった。

降水量は、第1及び第3～5半旬で平年を下回り、第3半旬では降雨がなかった。月合計は89mmで平年より14mm(14%)、前年より53mm(37%)少なかった。

日照時間は、第1、第3、第4及び第6半旬で平年並みか上回った。月合計は167時間で、平年より16時間(11%)、前年より47時間(39%)多かった。

表1 平成27年2月の気象 (暖地園芸研究所)

半旬	気温(℃)			氷点下日数(日)			最低極温(℃)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	4.0	5.5	8.1	1	1.9	1	-0.3	-1.8	-0.7
2	4.6	6.4	3.3	2	1.6	3	-1.1	-1.1	-1.7
3	7.3	6.4	3.8	1	1.8	1	-1.2	-1.3	-0.4
4	5.2	6.0	5.2	2	1.5	1	-0.5	-0.9	-1.3
5	10.1	6.8	5.6	1	1.2	0	-0.2	-0.5	0.3
6	8.0	7.4	11.7	0	0.8	0	4.0	0.6	1.5
平均/計/最低値	6.4	6.3	5.9	7	8.8	6	-1.2	-2.8*	-1.7

※：過去30年間の最低極温の平均

表1 (つづき)

半旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	8	13	2	29	29	23
2	29	15	28	24	28	13
3	0	11	109	46	27	6
4	11	27	0	30	26	25
5	17	21	0	20	26	37
6	24	16	4	18	16	16
合計	89	103	142	167	151	120

4月の作業 (果実の発育は次ページ)

4月になると平均気温が一段と高くなって枝葉・根ともに伸長が盛んな時期になり、果実の肥大も急速に進む。3月に続き、摘果・袋かけが重要な作業になる。

摘果・袋かけ

寒害を受けやすい園では、幼果の生死の判別がしやすくなった頃から摘果を始める。果形が細長いもの、果実肥大が均一でないもの、果皮に張りが無いものは被害果の可能性が高い。被害果の発生が多い園では、樹冠の外側の幼果は避け、被害が比較的少ない樹冠の内側の幼果を多く残すようにする。

がんしゅ病の予防

千葉県農作物病害虫雑草防除指針に従って、幼果期までに銅剤を予防散布する。その際、幹や枝にも薬液が十分にかかるようにする。

除 草

春草が繁茂する時期になるので、収穫が始まる前に除草を済ませる。草生栽培園では、有機物を補給する意味で草を刈り取って樹冠の周りに敷くとよいが、労力の足りない場合は除草剤を利用する。

樹及び花房の発育

ビワの開花期は表2に示した。暖地園芸研究所の開花始期は、「楠」が11月3日で、平年より6日、前年より12日早かった。「大房」が11月22日で、平年より4日、前年より28日早かった。「田中」が11月6日で、平年より8日、前年より13日早かった。開花盛期は、「楠」が11月20日で、平年より9日、前年より18日早かった。「大房」が12月11日で、平年より11日、前年より29日早かった。「田中」が11月17日で、平年より20日、前年より24日早かった。開花終期は、「楠」が11月30日で、平年より28日、前年より26日早かった。「大房」が1月8日で、平年より23日、前年より34日早かった。「田中」が11月29日で、平年より44日、前年より43日早かった。

本年は、花房の出蕾が3品種共に平年より早く、その後の開花の進みも早かったため、平年より早く開花が終わった。ビワの耐寒性は、花より幼果の方が低いため、強い寒波はなかったものの、品種あるいは圃場によっては、寒害を被ったところもあると考えられる。

表2 ビワの開花期（暖地園芸研究所）

品 種	開花始期(月.日)			開花盛期(月.日)			開花終期(月.日)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	11. 3	11. 9	11.15	11.20	11.29	12. 8	11.30	12.28	12.26
大 房	11.22	11.26	12.20	12.11	12.22	1. 9	1. 8	1.31	2.11
田 中	11. 6	11.14	11.19	11.17	12. 7	12.11	11.29	1.11	1.10

平年：昭和59年～平成25年の30年間の平均

3月2日時点のビワ幼果の生存率は表3に示した。樹冠外側の生存率は、「楠」が100%、「大房」が97%、「田中」が98%であり、3品種共に平年及び前年より高かった。樹冠内側の生存率は、「楠」が99%、「大房」が97%、「田中」が95%であり、「楠」は平年及び前年より高く、「大房」は平年及び前年並みで、「田中」は平年並みで前年より高かった。樹冠外側と内側では幼果の生存率に差がほとんどなかった。樹内外の平均生存率は、「楠」が100%、「大房」が97%、「田中」が96%であり、3品種共に平年及び前年より高かった。

暖地園芸研究所では、3月1日までに最低気温が-3℃以下を記録した日はなく、3品種共に寒害を被った幼果は少なかった。

花房内の幼果数は、3品種共に平年より多く、果実の肥大は平年より早く進んでいる。萌芽の展葉は、平年並みに進んでいる。本年の果樹カメムシ類の越冬量は、南房総市他県南地域で平年より少ないが、今後の発生予察情報を参考にする。また、カメムシの発生の多い園では、4月以降ビワ園への飛来に注意を要する。

表3 ビワ幼果の生存率（暖地園芸研究所）

品 種	樹冠の外側(%)			樹冠の内側(%)			内外の平均(%)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	100	66	85	99	92	93	100	78	88
大 房	97	82	87	97	95	97	97	87	91
田 中	98	84	90	95	96	84	96	90	88

調査日：平成27年3月2日

平年値：平成10年～平成26年の17年間の平均

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話0470-22-2961】
※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。
<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>